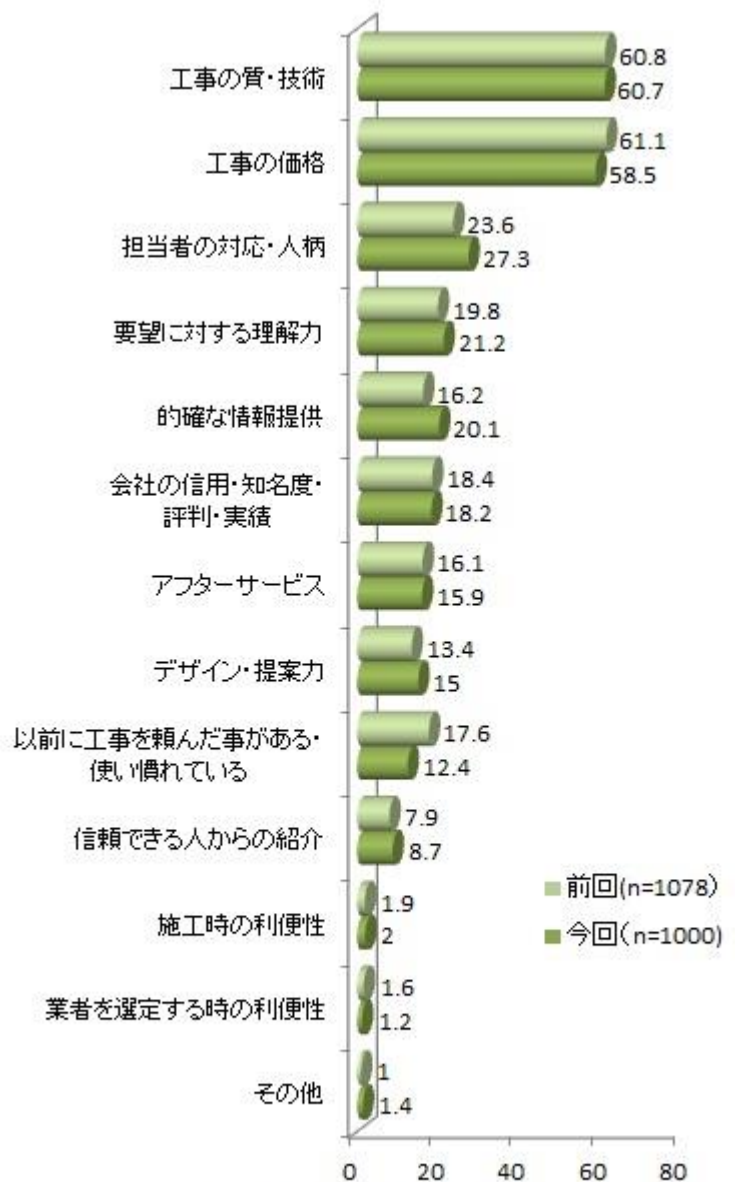


平成24年度住宅リフォーム実例調査

業者選び重点は工事の質・価格・見積もり・適正価格に不安が多い

一般社団法人住宅リフォーム推進協議会は3月18日に「平成24年度住宅リフォーム実例調査報告書」、
「インターネットによる住宅リフォーム潜在需要者の意識と行動に関する第8回調査報告書」完成記者発表会を行った。
弊紙紙面の都合により今回は「インターネットによる住宅リフォーム潜在需要者の意識と行動に関する第8回調査報告書」結果のポイントを紹介する。

1. 一般層のリフォーム需要(予備調査より)30才以上の持ち家居住者では“リフォームをしたい人”は全体の6割以上で、“税金の控除・減税”、“助成制度”、“住宅エコポイント制度”などが多く上がっている。10年以内にリフォーム意向のある層では、“いずれの制度も利用してリフォームをしたいと思わない”、“わからない”を除く約8割が、いずれかの制日を利用したいと回答している。
2. リフォーム需要者の意識と行動(本調査)需要者の年代は“60代以上が4割を超え、若年代では親・配偶者の親”名義の家をリフォームするケースも見られる。リフォームの対象となる住宅の築年数は、全体では“築後20年以上”が(54.0%)、“築後30年以上”が(26.1%)と古い住宅が中心となるが、マンションでは“15年未満”が(31.8%)と比較的新しい住宅でもリフォームが予定されている。
3. 業者情報の入手先は、戸建では“いつも工事を依頼している業者”の比率がやや低下し、インターネットが上昇。さらに“友人・知人”、“カタログ”などの比率が上昇している。



業者選びの重視点 前回(H22年)調査と比較

4. 業者選択の際の重視点は、費用と施工品質のウエイトが大きい。リフォーム業者選びの際の重視点“工事の質・技術”(60.7%)、“工事価格”(58.5%)が多く、不足している情報でも不足している情報でも“リフォームにかかる費用の目安や積算の基準”(64.2%)ともっとも多くなるなど、費用と施工品質がリフォームの訴求上の大きなポイントとなっている。前回調査結果との比較でみると、業者選びの際の重視点では“担当者の対応・人柄”、“的確な情報提供”、不足しているリフォーム情報では、“リフォームの工期・手順とチェックポイントに関する情報”、“資金計画に関する情報”などの比率が、前回よりもわずかながらアップしている。

5. リフォームの際の不安は“見積りの相場や適正価格がわからない”がもっとも多い。リフォームを検討している人のうち9割以上が何らかの不安を抱いており、全体の半数近くが“見積もりの相場や適正価格がわからない”を回答している。リフォームの際の不安を住宅の種類別にみると、戸建てでは、“費用がかかる”、“減税措置や補助制度などどのような支援制度があるのか”など費用に関連する項目がマンションに比べ高いのに対して、マンションでは、「業者が誠意をもって行ってくれるか」、「業者選び、手続きがよくわからない」など業者に関する項目の比率が戸建てよりも高くなっている。前回調査結果との比較でみると今回は、業者選びに関する項目とともに“どのような支援施策があるのか”の比率がアップしている。

壁装新聞(第398号)より引用